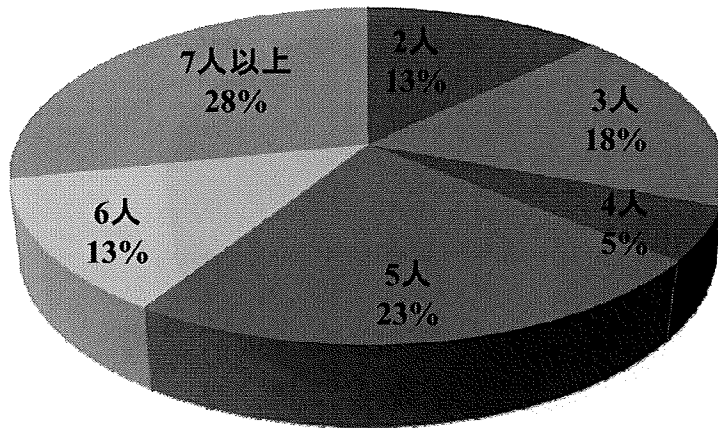
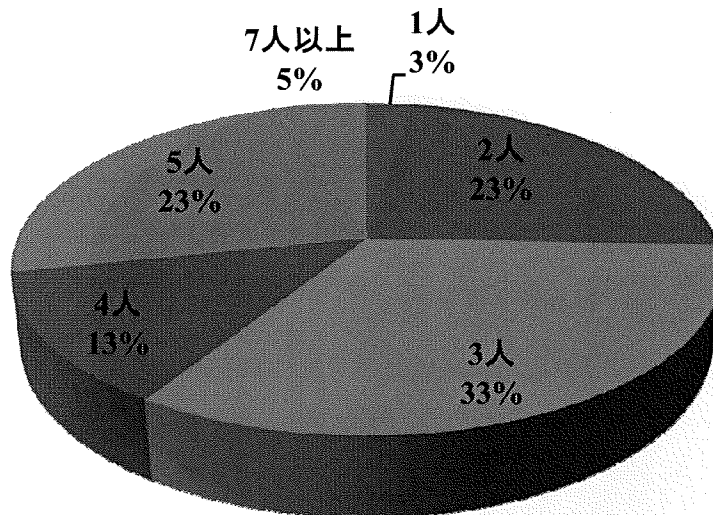


3交代制における看護師数(休日)

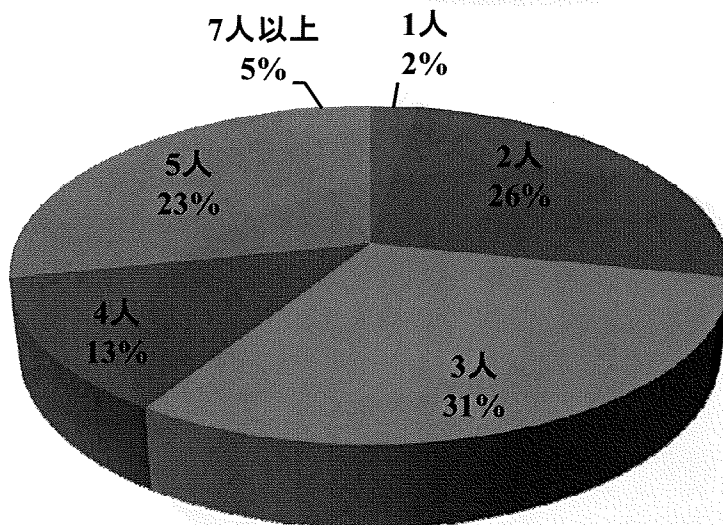
日勤



準夜



深夜



* 3交代制では準夜と深夜では人数に差は認められませんが、日勤時間帯では7人以上の施設が多くなるのが2交代制と違う特徴です。

3. 腹部・胸部大動脈瘤の外科治療について

平成 14 年度の診療報酬改定においていわゆる「手術施設基準」が導入され、手術症例数など定められた基準を満たさなければその手術の報酬が 3 割減算されることになりました。その後、多くの議論がなされ最終的には平成 18 年度改定において一部症例数に基づく手術施設基準は廃止されました。

日本において手術施設基準を導入した根拠は、欧米における「手術症例数と術後アウトカム」の関連性研究にありました。一方、本邦の環境下において「手術症例数が多い施設は手術のアウトカムが良い」かどうかの厳密な検証はまだ少ないのが現状です。

そこで、従来のプロセス・アウトカム解析の病院別比較に加えて、今回から新たな解析手法として「手術件数と術後アウトカムの関連性」の解析を行うことにしました。その第 1 弾として腹部・胸部大動脈瘤切除術を対象にした解析しました。

1. 方法

1.1. 使用データ

【対象病院】2006年4月1日から2008年12月31日の間にデータを提供いただいたQIP参加病院

【対象症例】2006年4月1日から2008年12月31日の間に退院した腹部・胸部大動脈瘤症例

【使用データ】様式1

1.2. 解析対象疾患の抽出方法

「主傷病名」, 「入院の契機となった傷病名」, 「医療資源を最も投入した傷病名」, 「医療資源を2番目に投入した傷病名」, 「入院時併存症1～4」(様式1: ff1401～ff1416) に以下の名称あるいはICD10コードが含まれるレコード

【抽出名称】動脈瘤

【抽出コード】I71 / I710 / I711 / I712 / I713 / I714 / I715 / I716 / I718
/ I719 / I723 / I790

1.3. 解析対象手術症例の抽出方法

「手術1」～「手術5」(様式1: ff1501～ff1535) に以下のK-codeが含まれるレコード

【腹部大動脈瘤切除術の抽出コード】K5607/ K5608

【胸部大動脈瘤切除術の抽出コード】K5601/ K5602/ K5603/ K5604/ K5605

なお, 「胸腹部大動脈瘤切除術(K5606)」の実施症例, および, 「腹部大動脈瘤切除術」や「胸部大動脈瘤切除術」や「ステントグラフト内挿術」の併用症例は解析から除外しました(n = 360) .

1.4. 統計解析

本解析では、病院別の手術件数と術後アウトカム（院内死亡率および術後在院日数）の関連性を検証するために、多変量解析を行いました。『腹部大動脈瘤切除術』と『胸部大動脈瘤切除術』の両術式について、それぞれ以下に挙げた仮説を検証することを目的にしました。

【死亡率モデル】仮説「施設あたりの手術経験が豊富であればあるほど院内死亡率は下がる」

【在院日数モデル】仮説「施設あたりの手術経験が豊富であればあるほど術後在院日数は短縮する」

※術後在院日数は、「腹部大動脈瘤切除術」あるいは「胸部大動脈瘤切除術」の実施日から退院日までの期間を算出しています。

1.5. 解析モデルの構築方法

1.5.1. 病院別手術件数の算出方法

QIP参加病院によってデータの提出期間が異なるため、本解析では以下の手順によって、「病院別年間手術件数」を算出することにしました。

- (1) データ解析対象期間中の病院別手術実施件数の合計値を算出する
- (2) 病院別のデータ提出月数と(1)の合計値を用いて、病院別の月間手術件数を算出する
- (3) 月間手術件数を年間換算するために、(2)の値を12倍する

1.5.2. リスク調整方法

大動脈瘤切除術の死亡率や術後在院日数を増加させる可能性のある変数のうち、臨床的重要性の高い変数かつ先行研究において頻繁に用いられている変数を本解析モデルの調整変数に設定することにしました。

【リスク調整変数】

1. 年齢
2. 性別
3. 緊急入院の有無
4. 大動脈瘤破裂の有無
5. 入院時併存症インデックス (Charlson's Comorbidity Index: CCI)
 - (1) 急性心筋梗塞
 - (2) 心不全
 - (3) 末梢血管疾患
 - (4) 脳血管障害
 - (5) 認知症
 - (6) 肺疾患
 - (7) 結合組織系障害
 - (8) 消化性潰瘍
 - (9) 肝疾患
 - (10) 糖尿病
 - (11) 糖尿病関連合併症
 - (12) 対麻痺
 - (13) 腎疾患
 - (14) 癌
 - (15) 転移性癌
 - (16) 重度肝疾患
 - (17) HIV

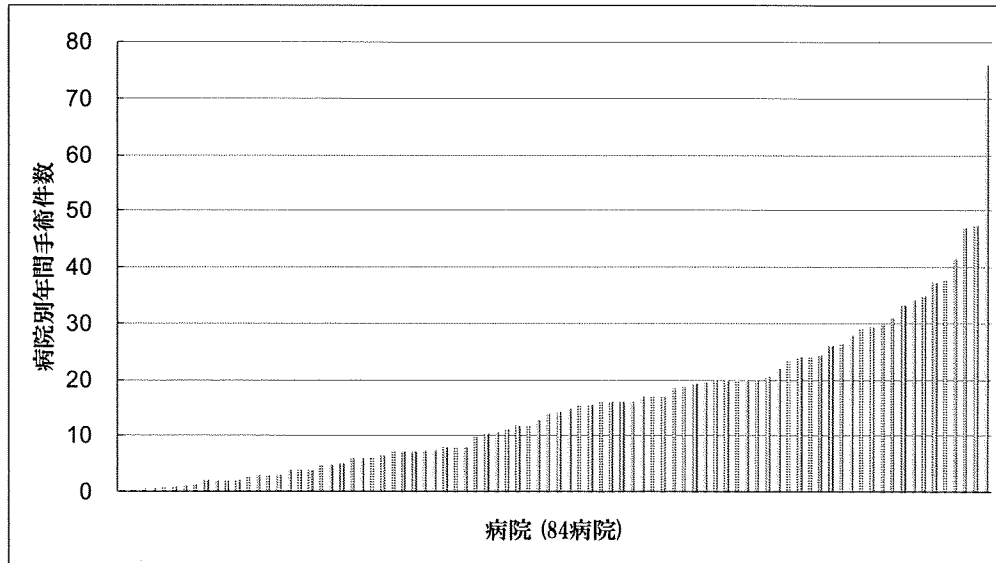
CCI : (1)～(17)の併存症について重み付けされた指標

2.1. 結果：病院別年間手術件数

2.1.1. 腹部大動脈瘤切除術

1.1.～1.3.を満たす《腹部大動脈瘤切除術》は84病院において実施されており、総症例数は2,074件でした。また、病院別の年間手術件数の平均値は15.6件でした。病院別の年間手術件数の分布を図1に示しています。

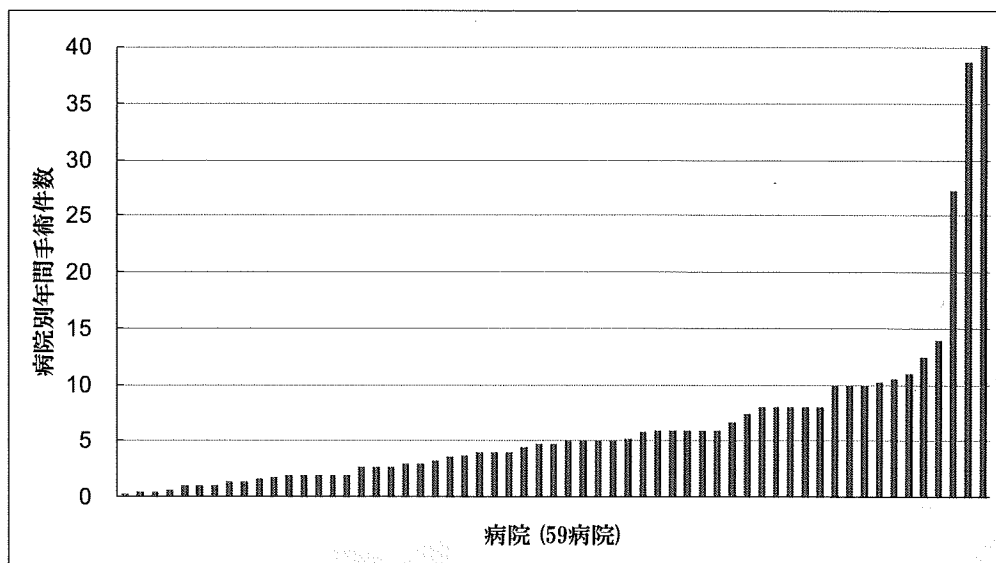
図1



2.1.2. 胸部大動脈瘤切除術

1.1.～1.3.を満たす《胸部大動脈瘤切除術》は59病院において実施されており、総症例数は642件でした。また、病院別の年間手術件数の平均値は6.4件でした。病院別の年間手術件数の分布を図2に示しています。

図2



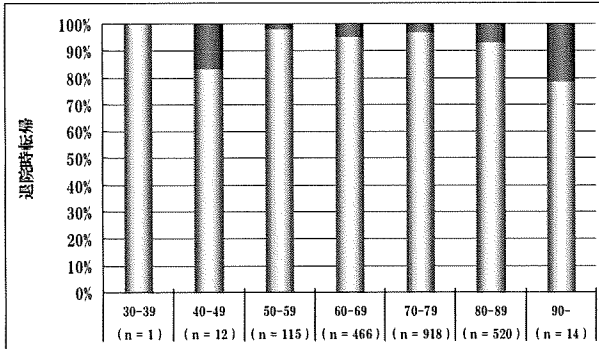
2.2. 結果：退院時転帰とリスク要因の関連性

2.2.1. 腹部大動脈瘤切除術

腹部大動脈瘤切除術件数と院内死亡率の関連性を検討する多変量解析を実施する前に、リスク要因それぞれについて院内死亡率の比較を行いました。

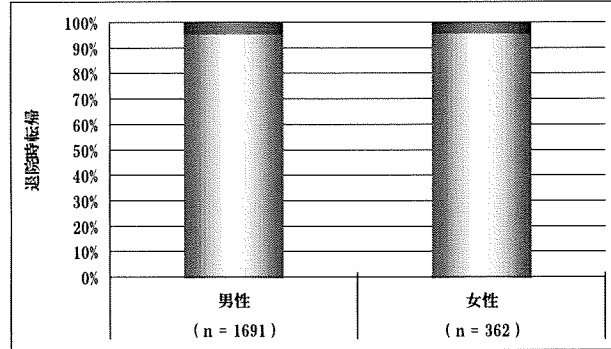
なお、腹部大動脈瘤切除術症例全体における院内粗死亡率は、4.6%でした。

入院時年齢



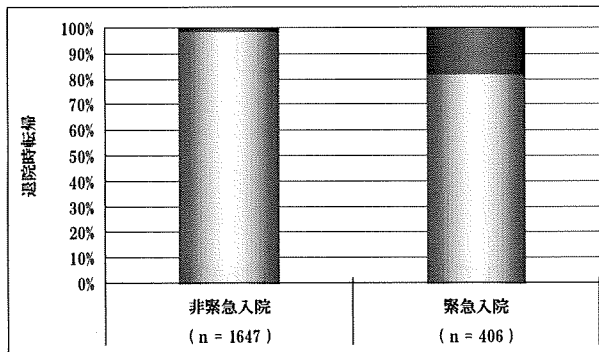
P-value < 0.001

男性 vs. 女性



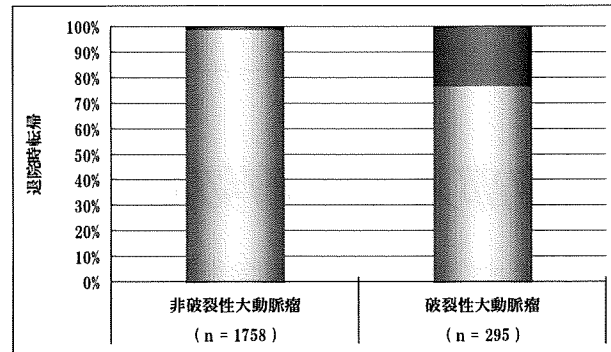
P-value = 0.66

非緊急入院 vs. 緊急入院



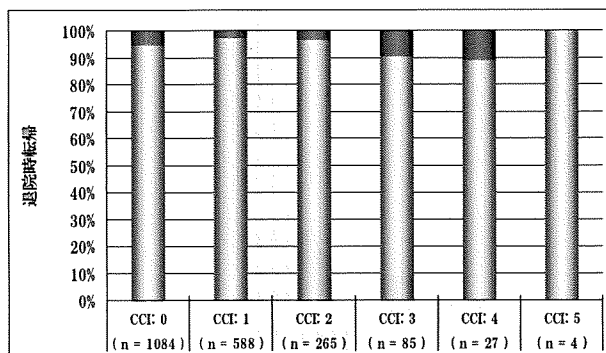
P-value < 0.001

非破裂性大動脈瘤 vs. 破裂性大動脈瘤



P-value < 0.001

併存症インデックス (Charlson's Comorbidity Index)



P-value = 0.01



【退院時転帰】生存



【退院時転帰】死亡

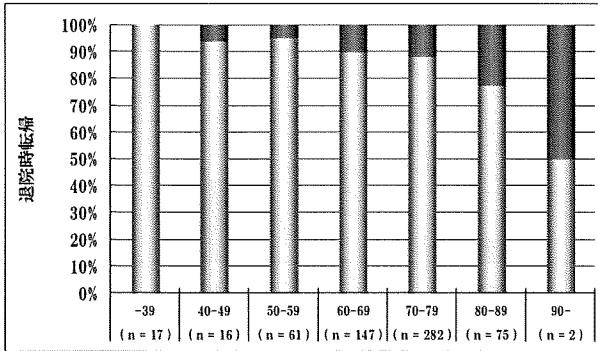
2.2. 結果：退院時転帰とリスク要因の関連性

2.2.2. 胸部大動脈瘤切除術

胸部大動脈瘤切除術件数と院内死亡率の関連性を検討する多変量解析を実施する前に、リスク要因それぞれについて院内死亡率の比較を行いました。

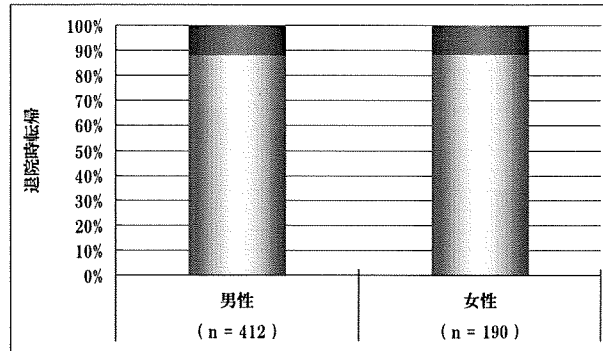
なお、胸部大動脈瘤切除術症例全体における院内粗死亡率は、11.7%でした。

入院時年齢



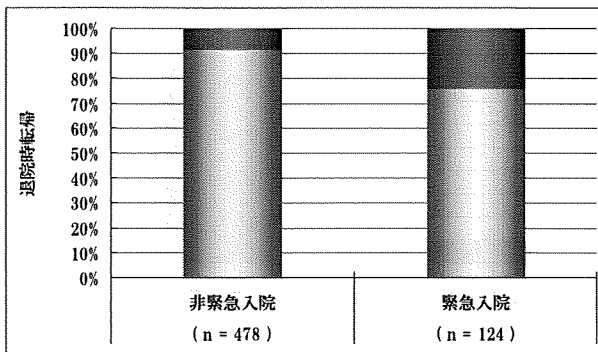
P-value < 0.05

男性 vs. 女性



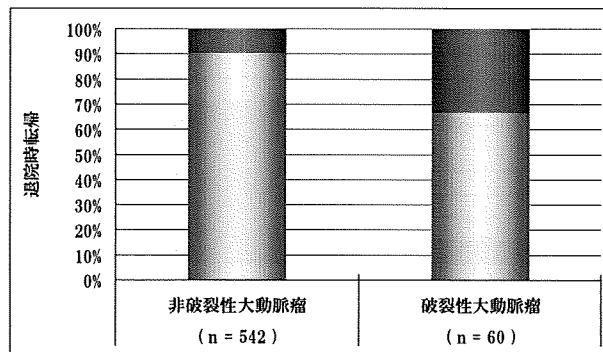
P-value = 0.91

非緊急入院 vs. 緊急入院



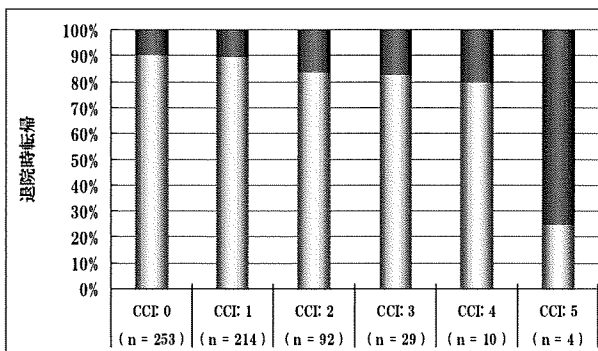
P-value < 0.001

非破裂性大動脈瘤 vs. 破裂性大動脈瘤



P-value < 0.001

併存症インデックス (Charlson's Comorbidity Index)



P-value = 0.001



【退院時転帰】生存



【退院時転帰】死亡

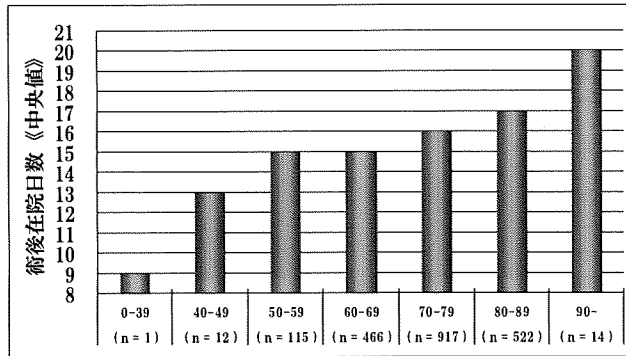
2.3. 結果：術後在院日数とリスク要因の関連性

2.3.1. 腹部大動脈瘤切除術

腹部大動脈瘤切除術件数と術後在院日数の関連性を検討する多変量解析を実施する前に、リスク要因それぞれについて術後在院日数の比較を行いました。

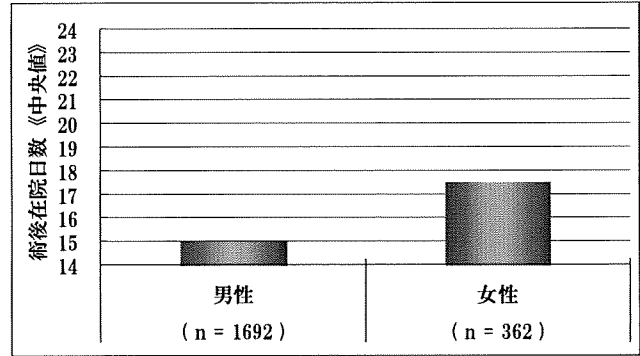
なお、腹部大動脈瘤切除術症例全体における術後在院日数の中央値は16日、平均値は22.5日でした。

入院時年齢



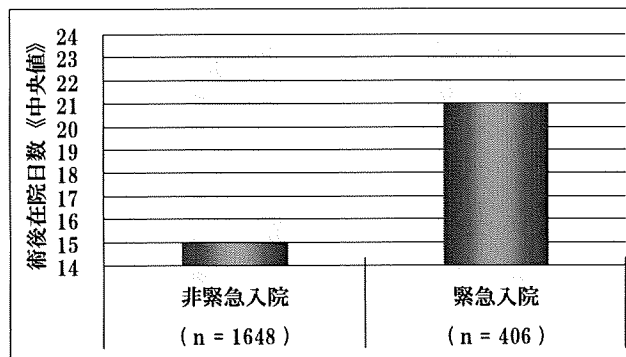
P-value < 0.001

男性 vs. 女性



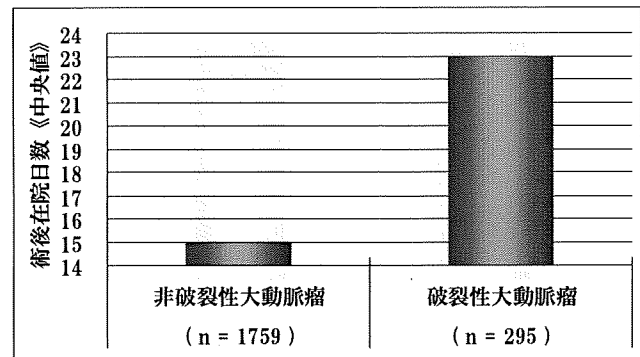
P-value < 0.001

非緊急入院 vs. 緊急入院



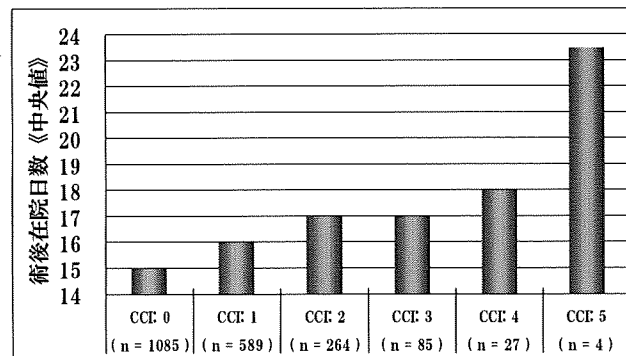
P-value < 0.001

非破裂性大動脈瘤 vs. 破裂性大動脈瘤



P-value < 0.001

併存症インデックス (Charlson's Comorbidity Index)



P-value < 0.001

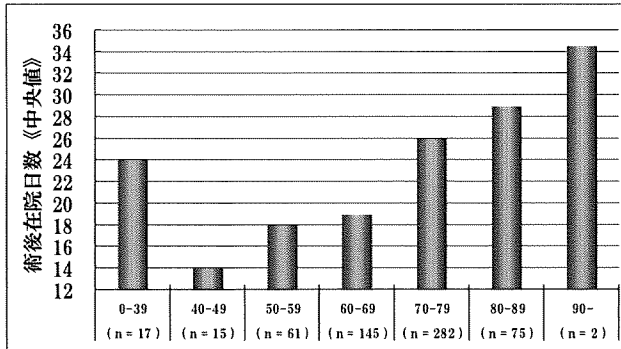
2.3. 結果：術後在院日数とリスク要因の関連性

2.3.2. 胸部大動脈瘤切除術

胸部大動脈瘤切除術件数と術後在院日数の関連性を検討する多変量解析を実施する前に、リスク要因それぞれについて術後在院日数の比較を行いました。

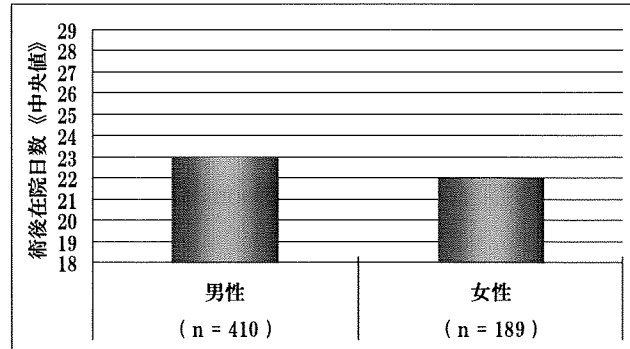
なお、胸部大動脈瘤切除術症例全体における術後在院日数の中央値は23日、平均値は38.8日でした。

入院時年齢



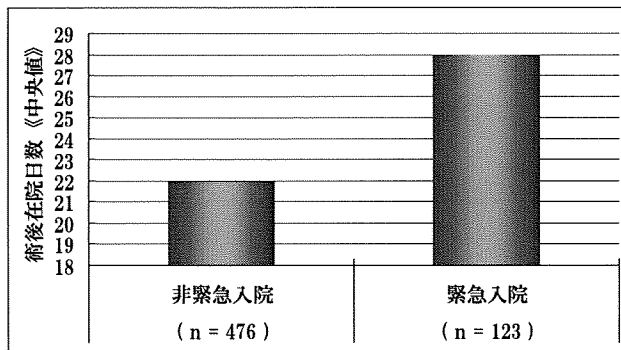
P-value < 0.001

男性 vs. 女性



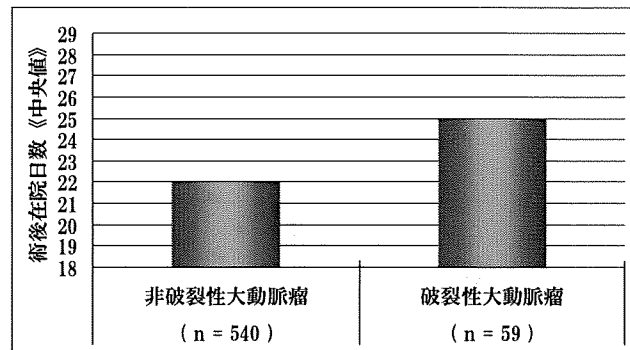
P-value = 0.87

非緊急入院 vs. 緊急入院



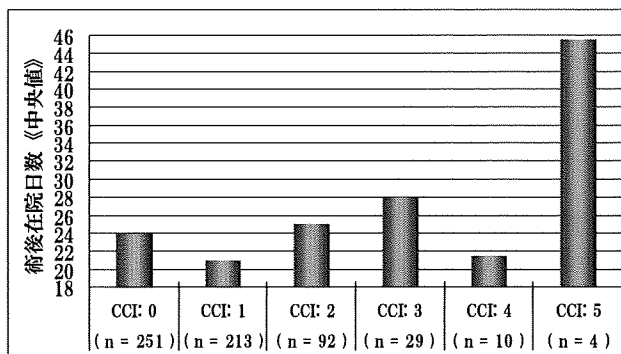
P-value = 0.06

非破裂性大動脈瘤 vs. 破裂性大動脈瘤



P-value = 0.76

併存症インデックス (Charlson's Comorbidity Index)



P-value = 0.60

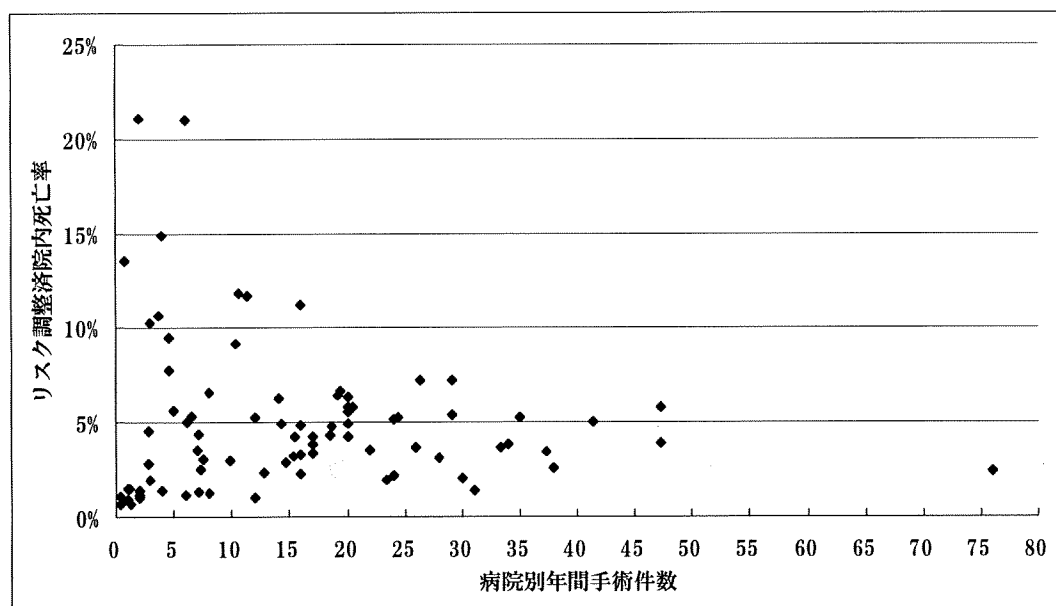
2.4. 結果：手術件数とリスク調整済死亡率の関連性

2.4.1. 腹部大動脈瘤切除術

下図は、施設別の「リスク調整した院内死亡率(年間手術件数では調整していない)」と「年間手術件数」をプロットした結果を示したものです。本解析で用いたリスク調整因子を以下に示します。

【リスク調整因子】

1. 年齢
2. 性別
3. 緊急入院の有無
4. 大動脈瘤破裂の有無
5. 併存症インデックス(Charlson's Comorbidity Index)



《解析対象病院数》 84病院
 《解析対象症例数》 2,074症例
 《全症例におけるリスク調整済院内死亡率》 4.6%

この結果から読み取れることは、腹部大動脈瘤切除術を豊富に実施している施設ほど、院内死亡率が4%程度に収束していく関連性が視覚的に確認できることです。

また、「病院別年間手術件数」をモデルに組み入れた多変量解析においても、手術件数の多い施設ほど院内死亡率が低い関連性を統計学的に確認することができました。

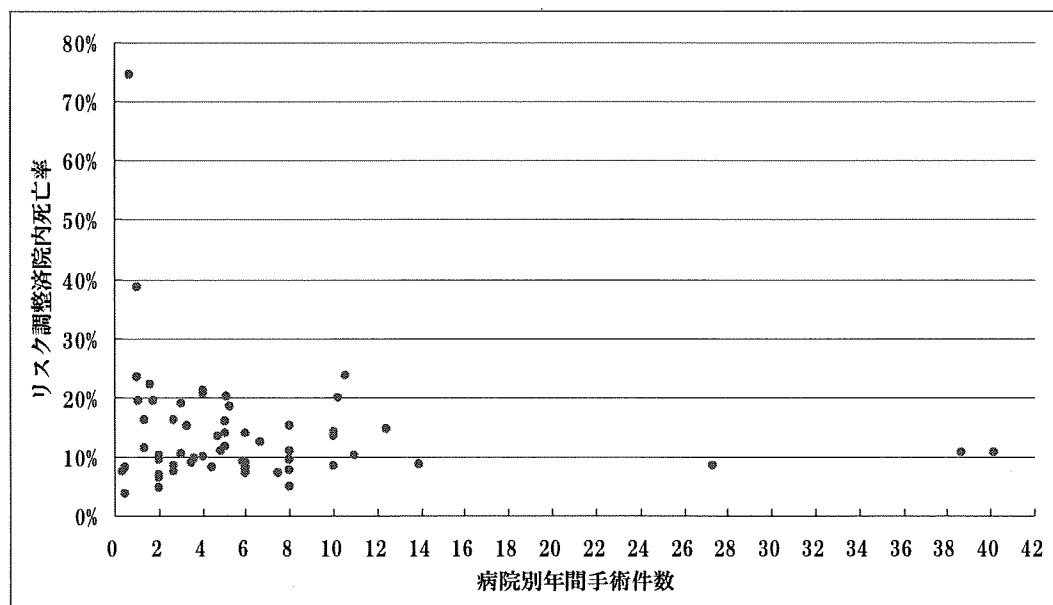
2.4. 結果：手術件数とリスク調整済死亡率の関連性

2.4.2. 胸部大動脈瘤切除術

下図は、施設別の「リスク調整した院内死亡率(年間手術件数では調整していない)」と「年間手術件数」をプロットした結果を示したものです。本解析で用いたリスク調整因子を以下に示します。

【リスク調整因子】

1. 年齢
2. 性別
3. 緊急入院の有無
4. 大動脈瘤破裂の有無
5. 併存症インデックス(Charlson's Comorbidity Index)



《解析対象病院数》 59病院
 《解析対象症例数》 642症例
 《全症例におけるリスク調整済院内死亡率》 12.3%

この結果から読み取れることは、胸部大動脈瘤切除術を豊富に実施している施設ほど、院内死亡率が10%程度に収束していく関連性が視覚的に確認できることです。

また「病院別年間手術件数」をモデルに組み入れた多変量解析においても、手術件数の多い施設ほど院内死亡率が低い関連性を統計学的にも確認することができました。

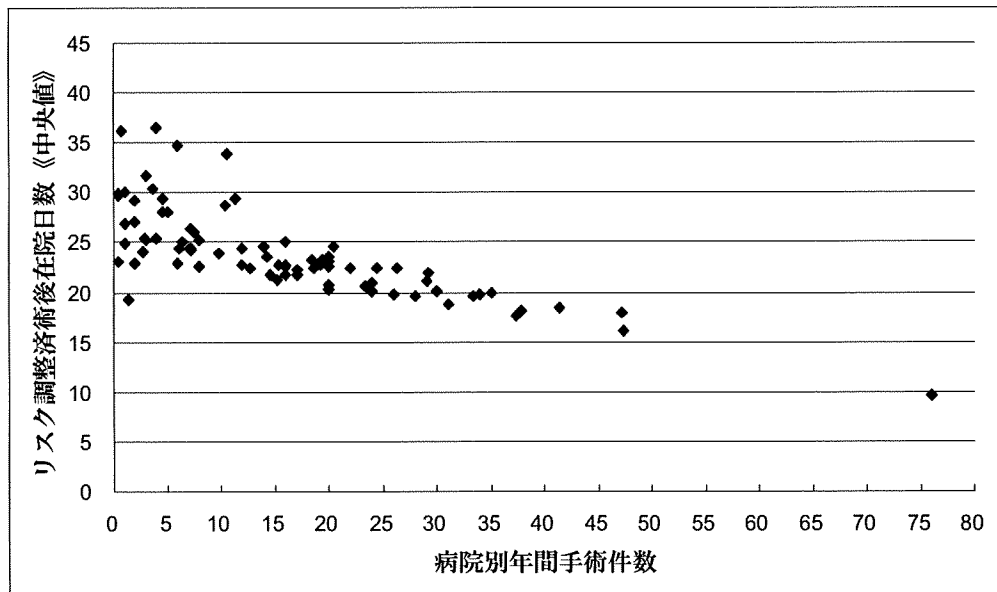
2.5. 結果：手術件数とリスク調整済術後在院日数の関連性

2.5.1. 腹部大動脈瘤切除術

下図は、施設別の「リスク調整した術後在院日数(年間手術件数では調整していない)」と「年間手術件数」をプロットした結果を示したものです。本解析で用いたリスク調整因子を以下に示します。

【リスク調整因子】

1. 年齢
2. 性別
3. 緊急入院の有無
4. 大動脈瘤破裂の有無
5. 併存症インデックス(Charlson's Comorbidity Index)



《解析対象病院数》 84病院
 《解析対象症例数》 2,071症例
 《全症例におけるリスク調整済術後在院日数の中央値》 21.4日

この結果から読み取れることは、腹部大動脈瘤切除術を豊富に実施している施設ほど、術後在院日数がほぼ線形的に減少していく関連性が視覚的に確認できることです。

また「病院別年間手術件数」をモデルに組み入れた多変量解析においても、手術件数の多い施設ほど術後在院日数が短い関連性を統計学的にも確認することができました。

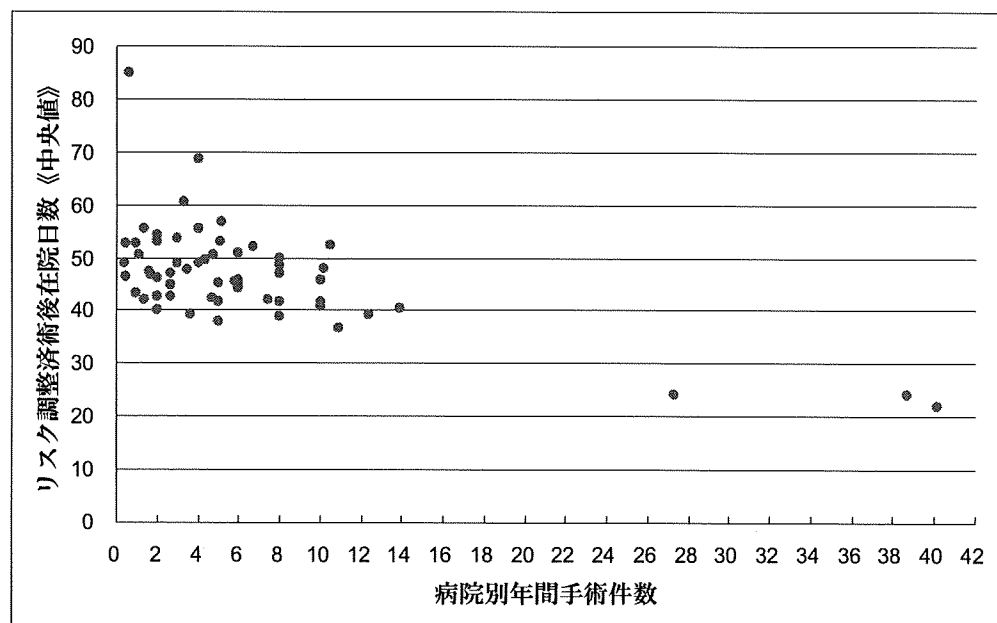
2.5. 結果：手術件数とリスク調整済術後在院日数の関連性

2.5.2. 胸部大動脈瘤切除術

下図は、施設別の「リスク調整した術後在院日数(年間手術件数では調整していない)」と「年間手術件数」をプロットした結果を示したものです。本解析で用いたリスク調整因子を以下に示します。

【リスク調整因子】

1. 年齢
2. 性別
3. 緊急入院の有無
4. 大動脈瘤破裂の有無
5. 併存症インデックス(Charlson's Comorbidity Index)



《解析対象病院数》 59病院
 《解析対象症例数》 639症例
 《全症例におけるリスク調整済術後在院日数の中央値》 40.8日

この結果から読み取れることは、胸部大動脈瘤切除術を豊富に実施している施設ほど、術後在院日数がほぼ線形的に減少していく関連性が視覚的に確認できることです。

また「病院別年間手術件数」をモデルに組み入れた多変量解析においても、手術件数の多い施設ほど術後在院日数が短い関連性を統計学的にも確認することができました。

4. 乳癌の入院治療分析

昨年9月号での乳癌の入院治療のQIP報告では、個々の参加病院の診療内容のみならず、2004年以降の疫学的内容や診療形態についての経年的変化を解析してご報告致しました。今回の解析では、参加病院数が増加したこともあり、2008～2009年の1年間の診療内容について解析を加えました。

今回の解析の特色として、従来の参加病院別の解析の他に、日本乳癌学会（以下JBCS）の認定施設（関連施設を含む）の有無により比較解析を加えました。DPCデータを用いた癌診療の精度の高い解析には、可能な限り臨床情報を必要としますが、その情報は限定的です。しかしその中でもTNM病期分類は不可欠であると考えます。今回も一部を除きTNM病期分類のされていないデータは除外しております。（データ期間：2008年4月～2009年3月）

2007年のがん対策基本法の成立をうけて、がん治療の均てん化と診療の標準化は急務であります。QIPでは学会など既存のがん登録にはない在院日数、医療費にも視点を当てながら、質の高いデータを発信することで貢献して参りたいと考えます。今回は（1）症例数、TNM病期分類の状況（2）乳房温存術、入院化学療法の実行状況（3）在院日数（4）医療費についてJBCS認定施設の有無を比較しました。

解説

1. 症例数、TNM 病期分類の状況

年間症例件数は、JBCS 認定施設および関連施設（以下、認定施設と略記。）が半数以上が100件以上である

のに対し、非認定施設（図表では「認定以外」と表記。）では約1割に過ぎず、症例数は認定施設と比較して少ないグループといえる。

TNM 病期分類の入力率は、50%以上の病院は全体の2割程度であった。また、入力なしの病院が全体の5割弱を占めた。認定施設の方が、僅かながら入力率は高い傾向にあった。

2. 手術術式：乳房温存術の施行状況

認定施設の方が、「手術あり」の割合が高く、根治手術（乳房部分切除（＝温存術）、または乳房全摘術など）のうち乳房温存術の占める割合がかなり高い。認定施設の温存術の割合のメジアン（中央値）は55%であった。

しかしStage I～IIに限定すると、認定施設と非認定施設の温存術の施行率はほぼ同等であった。

3. 入院化学療法の実行状況

認定施設では、「手術あり」の症例において入院化学治療の実行率は低く、逆に「手術なし」の症例においては入院化学治療が多く、手術入院と化学医療入院とを目的別に分けている傾向がうかがわれる。

4. 在院日数

手術の有無別での在院日数：「手術あり」の在院日数のメジアンは認定施設（12日）と非認定施設（14日）と差はわずか2日であるが、「手術なし」の場合では差は6日に拡大している。

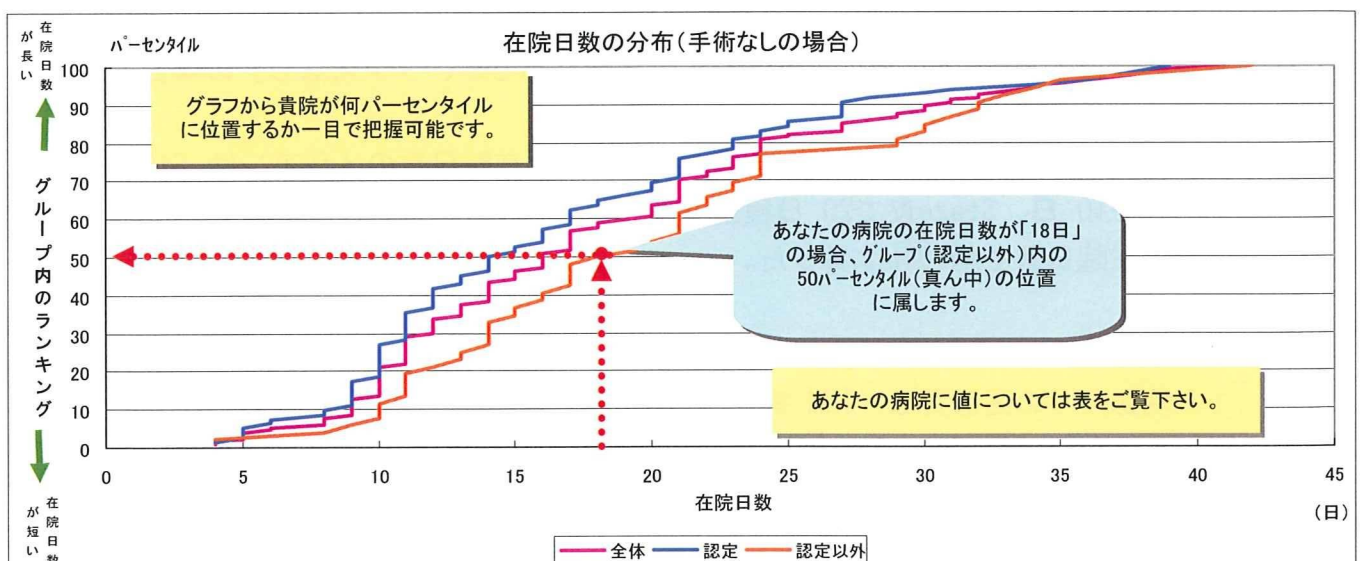
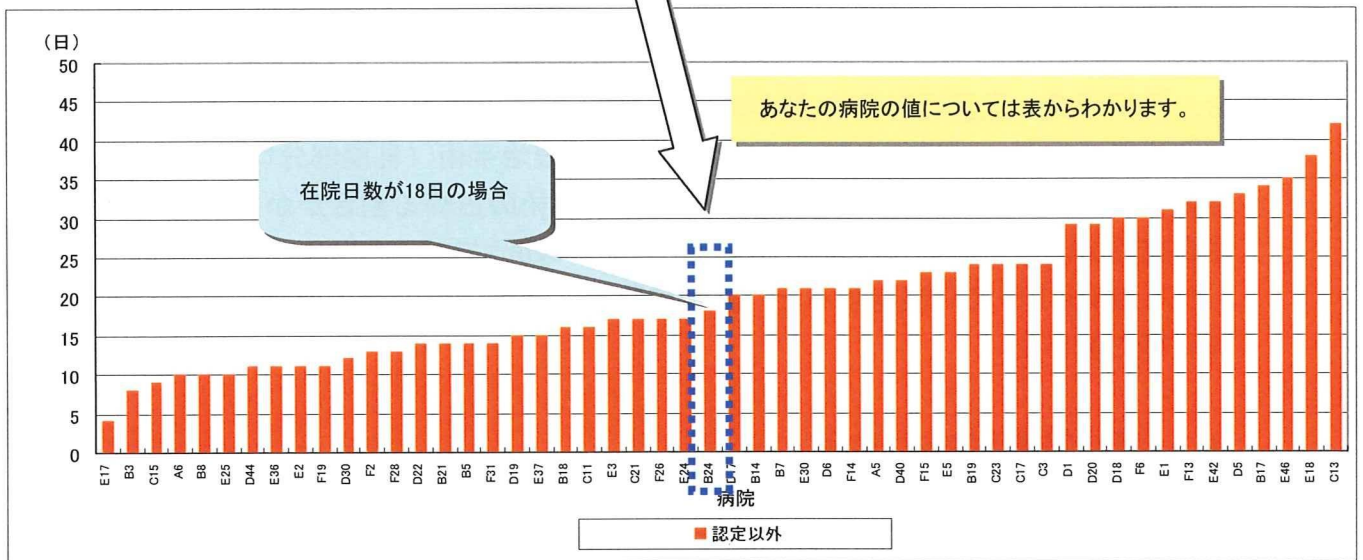
TNM 病期別での在院日数：認定、非認定施設とも、在院日数のメジアンは、Stage I～IIで10日、StageIVで20日程度であった。また、Stage I～IIでは1週間以内の在院日数も約10%であった。

5. 医療費

1入院あたりの医療費は、TNM 病期別、手術の有無別でも、認定・非認定施設間に差はない。ただし、StageIV では認定施設が高額であった。

図の読み方

病院	Stage別				手術別			
	0	I~II	III	IV	なし	手術あり※	温存	全摘
A1		24			12	24	24	
A5					22	14	14	15
A6					10	25	31	16
B3					8	8	9	8
B5		11	11	2	14	11	14	7
B7					21	8	14	6
B8								
B14	11	10	15	24	20	15	15	15
B17					34	10	13	8
B18					16	11	13	9
B19					24	9	9	9
B21		11			14	15	17	12
B23					14	31	31	
B24					18	15	16	9
C1					29	10	17	19
C3		11		27	24	11	7	12



症例数、TNM病期分類の状況

日本乳癌学会認定・関連施設

病院	レコード数	年間症例数	TNM分類 入力率	Stage分類内訳				
				Stage0	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV
A2	22	29	4 (18%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	1 (25%)	2 (50%)
A3	39	117	30 (77%)	3 (10%)	10 (33%)	13 (43%)	3 (10%)	1 (3.3%)
A4	78	104	0					
B1	26	104	0					
B2	48	96	1 (2.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
B4	62	62	0					
B6	148	161	1 (0.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
B9	93	186	84 (90%)	1 (1.2%)	23 (27%)	39 (46%)	10 (12%)	11 (13%)
B10	142	142	115 (81%)	6 (5.2%)	42 (37%)	35 (30%)	16 (14%)	16 (14%)
B11	53	53	32 (60%)	1 (3.1%)	7 (22%)	14 (44%)	4 (13%)	6 (19%)
B12	129	129	89 (69%)	11 (12%)	25 (28%)	39 (44%)	5 (5.6%)	9 (10%)
B13	7	84	0					
B15	101	135	27 (27%)	1 (3.7%)	15 (56%)	4 (15%)	1 (3.7%)	6 (22%)
B16	60	120	0					
B20	35	47	0					
B22	71	95	55 (78%)	0 (0%)	15 (27%)	19 (35%)	2 (3.6%)	19 (35%)
B25	37	49	0					
B26	134	134	111 (83%)	0 (0%)	20 (18%)	42 (38%)	2 (1.8%)	47 (42%)
B27	41	82	0					
B28	130	173	114 (88%)	1 (0.9%)	19 (17%)	31 (27%)	25 (22%)	38 (33%)
C2	99	99	0					
C4	72	144	0					
C6	4	5	0					
C8	82	164	0					
C9	5	10	0					
C10	30	60	0					
C18	59	79	25 (42%)	1 (4%)	13 (52%)	8 (32%)	2 (8%)	1 (4%)
D2	21	84	0					
D3	37	37	0					
D4	34	68	0					
D7	73	146	0					
D8	157	157	1 (0.6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
D9	204	204	154 (76%)	27 (18%)	42 (27%)	36 (23%)	9 (5.8%)	40 (26%)
D10	568	568	0					
D11	261	261	7 (2.7%)	0 (0%)	7 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
D12	73	146	50 (69%)	3 (6%)	16 (32%)	11 (22%)	9 (18%)	11 (22%)
D14	69	92	29 (42%)	0 (0%)	8 (28%)	8 (28%)	5 (17%)	8 (28%)
D15	146	146	0					
D16	342	342	1 (0.3%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
D21	128	128	102 (80%)	3 (2.9%)	30 (29%)	45 (44%)	11 (11%)	13 (13%)
D23	67	89	0					
D24	68	68	0					
D27	110	147	0					
D29	145	145	0					
D31	100	100	0					
D32	129	129	67 (52%)	0 (0%)	33 (49%)	19 (28%)	2 (3%)	13 (19%)
D33	80	87	13 (16%)	0 (0%)	6 (46%)	3 (23%)	1 (7.7%)	3 (23%)
D34	27	54	5 (19%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (60%)	2 (40%)	0 (0%)
D36	80	80	0					
D37	33	66	0					
D38	83	83	0					
D39	647	1294	0					
D41	124	124	76 (61%)	3 (3.9%)	22 (29%)	12 (16%)	9 (12%)	30 (40%)
D42	50	100	27 (54%)	0 (0%)	5 (19%)	19 (70%)	3 (11%)	0 (0%)
D43	225	225	0					
D45	139	278	0					
D46	158	158	11 (7%)	0 (0%)	2 (18%)	4 (36%)	2 (18%)	3 (27%)

症例数、TNM病期分類の状況

日本乳癌学会認定・関連施設

病院	レコード数	年間症例数	TNM分類 入力率	Stage分類内訳				
				Stage0	Stage I	Stage II	Stage III	StageIV
E6	36	72	34 (94%)	0 (0%)	13 (38%)	9 (27%)	3 (8.8%)	9 (27%)
E10	108	108	0					
E16	37	74	0					
E22	206	275	29 (14%)	1 (3.4%)	6 (21%)	3 (10%)	9 (31%)	10 (35%)
E27	65	87	0					
E34	64	70	33 (52%)	1 (3%)	14 (42%)	13 (39%)	2 (6.1%)	3 (9.1%)
E38	13	31	9 (69%)	0 (0%)	1 (11%)	3 (33%)	1 (11%)	4 (44%)
E40	29	39	4 (14%)	0 (0%)	1 (25%)	2 (50%)	0 (0%)	1 (25%)
F1	23	46	0					
F4	122	122	0					
F5	31	41	10 (32%)	1 (10%)	2 (20%)	5 (50%)	1 (10%)	1 (10%)
F7	150	150	132 (88%)	16 (12%)	48 (36%)	37 (28%)	8 (6.1%)	23 (17%)
F8	246	246	77 (31%)	3 (3.9%)	21 (27%)	20 (26%)	15 (20%)	18 (23%)
F9	72	72	34 (47%)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	12 (35%)	1 (2.9%)	19 (56%)
F10	183	366	0					
F12	198	396	0					
F16	85	85	8 (9.4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (25%)	6 (75%)
F17	167	334	6 (3.6%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (33%)	0 (0%)	4 (67%)
F18	734	734	464 (63%)	81 (18%)	158 (34%)	156 (34%)	35 (7.5%)	34 (7.3%)
F21	216	216	54 (25%)	6 (11%)	26 (48%)	16 (30%)	4 (7.4%)	2 (3.7%)
F22	66	132	57 (86%)	0 (0%)	18 (32%)	32 (56%)	5 (8.8%)	2 (3.5%)
F23	49	65	15 (31%)	1 (6.7%)	0 (0%)	9 (60%)	5 (33%)	0 (0%)
F25	108	108	78 (72%)	0 (0%)	0 (0%)	21 (27%)	26 (33%)	31 (40%)
F27	62	62	0					
F29	37	63	0					
F30	91	91	85 (93%)	8 (9.4%)	24 (28%)	34 (40%)	7 (8.2%)	12 (14%)
F32	77	103	20 (26%)	0 (0%)	6 (30%)	12 (60%)	2 (10%)	0 (0%)

症例数、TNM病期分類の状況

日本乳癌学会認定・関連施設以外

病院	レコード数	年間症例数	TNM分類 入力率	Stage分類内訳				
				Stage0	Stage I	Stage II	Stage III	StageIV
A1	7	9	1 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
A5	27	36	0					
A6	20	40	0					
B3	8	48	0					
B5	155	155	12 (7.7%)	0 (0%)	3 (25%)	7 (58%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)
B7	171	171	0					
B8	26	26	3 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
B14	171	171	24 (14%)	1 (4.2%)	3 (13%)	10 (42%)	4 (17%)	6 (25%)
B17	190	380	0					
B18	14	84	0					
B19	51	68	0					
B21	43	43	1 (2.3%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
B23	8	16	0					
B24	61	61	0					
C1	5	7	0					
C3	16	21	13 (81%)	0 (0%)	5 (39%)	1 (7.7%)	0 (0%)	7 (54%)
C5	2	8	0					
C7	6	9	2 (33%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)
C11	42	56	23 (55%)	2 (8.7%)	2 (8.7%)	5 (22%)	7 (30%)	7 (30%)
C12	5	10	0					
C13	28	56	0					
C14	5	7	0					
C15	60	65	0					
C16	12	16	1 (8.3%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
C17	10	20	8 (80%)	0 (0%)	1 (13%)	1 (13%)	1 (13%)	5 (63%)
C19	6	6	0					
C20	10	13	0					
C21	30	60	0					
C22	8	16	0					
C23	18	24	6 (33%)	0 (0%)	4 (67%)	2 (33%)	0 (0%)	0 (0%)
C24	8	8	0					
D1	36	36	0					
D5	65	87	0					
D6	69	92	0					
D17	63	84	0					
D18	25	50	0					
D19	112	112	0					
D20	61	61	1 (1.6%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
D22	32	32	0					
D26	13	13	1 (7.7%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
D28	6	12	0					
D30	121	161	24 (20%)	0 (0%)	6 (25%)	7 (29%)	3 (13%)	8 (33%)
D35	4	16	3 (75%)	1 (33%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)	1 (33%)
D40	66	66	44 (67%)	1 (2.3%)	11 (25%)	9 (21%)	15 (34%)	8 (18%)
D44	75	100	0					
E1	24	26	11 (46%)	0 (0%)	3 (27%)	7 (64%)	0 (0%)	1 (9.1%)
E2	9	36	3 (33%)	0 (0%)	1 (33%)	1 (33%)	1 (33%)	0 (0%)
E3	90	90	0					
E5	24	48	12 (50%)	0 (0%)	4 (33%)	6 (50%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)
E11	16	16	13 (81%)	1 (7.7%)	6 (46%)	5 (39%)	1 (7.7%)	0 (0%)
E12	1	1	0					
E13	3	6	0					
E14	2	4	0					
E15	2	3	0					
E17	15	20	0					
E18	30	30	0					
E19	1	1	0					
E20	4	4	0					
E23	3	6	0					
E24	20	22	9 (45%)	0 (0%)	2 (22%)	3 (33%)	0 (0%)	4 (44%)
E25	43	57	34 (79%)	1 (2.9%)	5 (15%)	16 (47%)	1 (2.9%)	11 (32%)
E26	5	5	2 (40%)	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)